

左の文章を読んで、下の問いに答えましょう。

1 左下の2022年11月8日姫路で皆既食の月(月全体が地球の影にすっぽり入っている状態の月)が見られたのは、何時何分か書きましょう。

午後 時 分

2 傍線部のように言えるのはなぜですか。その理由を本文中から2つ読み取って書きましょう。

3 空欄ABに入る数字を書きましよう。

A	B
---	---

NIEワークシート 小高～高校



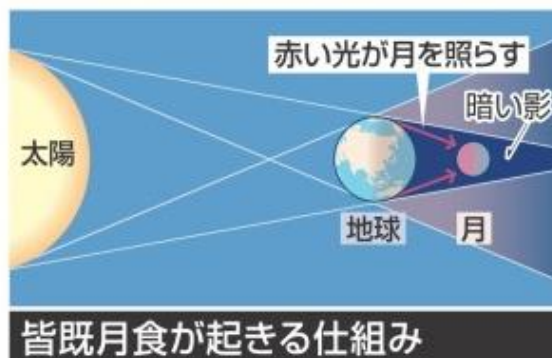
今年は9月8日、満月が地球の影にすっぽり入って、暗くなる「皆既月食」がおおよそ3年ぶりに日本全国で見られます。

皆既月食は、太陽と地球、月が一直線にならんだ時に起こります。地球の影に隠れた月は真っ暗になって見えなくなる、と思いきや、実は赤黒く見えます。これは、太陽光のうち赤い光がわずかに地球の空気を通りぬけて照らすからです。満月が地球の影で隠されていき、また満月へと戻るまでおよそ1時間半。晴れていれば、月の色や形が少しずつ変わる様子を楽しむことができますよ。

ただ、今回最も月が隠れるのはみんなが寝静まる午前2時半から午前4時前にかけてという、観測しにくい時間帯なのが困りもの。でもご安心を。次に日本で観測できるのは来年3月3日、この時には午後8時9時に起こります。

満月であろうとなかろうと、秋は月を見るのにとて

11 皆既月食 3年ぶり、日本全国で観測へ



皆既月食が起きる仕組み



姫路市で見られた皆既月食。左から午後6時、6時20分、7時、7時59分、8時42分、9時、9時40分。中央が皆既食の状態です＝いずれも2022年11月8日

景をかすませる原因にもなる湿気が少なく、乾いた日が多いので、クリアな月が見やすいというわけです。さらに、秋は高過ぎず低過ぎず、ちょうど首がしんどくない高さに月がのぼります。春も同じなのですが、春は花粉や黄砂がかすんでどうしても「おぼろ月」になってしまいがち。秋にお月見するのはちゃんと理由があったんですね。そもそも、満月は1年に何回見られるのでしょうか？ 満月が欠けて、また満月に戻るまでには約29・5日かかります。日本では昔、月の満ち欠けをもとに暦を作っていたので暦の区切りを「1カ月」と呼ぶんですね。ということは、満月は年でA回見られるはず。でも、今の暦は太陽の動きをもとに作られているので月の変化と少しずれていて、2023年のように1年にB回満月が見られる年もあります。(サイエンスコミュニケーター・本田隆行)



ほんだ・たかゆき 1982年生まれの「科学とあなたをつなぐ人」。神戸大学大学院時代の専門は地球惑星科学。日本科学未来館勤務を経て国内でもめずらしいプロのサイエンスコミュニケーターとして活動中。

NIEワークシートのこたえ（2025年9月3日公開）

◆ワークシート「皆既月食(理科)」
2025.9.1付 夕刊 3面 解答

1 7 時 59 分

2 湿気が少なく、乾いた日が多い
高すぎず低すぎず、見やすい高さに月が昇る（同意可）

3 A 1 2 B 1 3